

扶餘ってどんなところ？



6~7世紀頃、百濟王朝の都・泗沘があった歴史あるまちです。
錦江という大きな川の流域にあり豊かな自然に恵まれています。

扶餘郡や周りの自治体の遺跡が「百済歴史遺跡地区」としてユネスコの世界遺産に登録され、韓国国内外から観光客が訪れています。

農業も盛んで、特産品の農産物はブランド化され、世界各国に輸出されています。

人口:63,774人(R3.12.31時点)

面積:624.6km²

気温:最低-15°C 最高36°C (過去5年平均)

ちなみにハングルでは…

B부 O는 발음なし
D대 O는 발음なし
Da za i
yeo h

ハングルは基本的に、子音を表す部分と母音を表す部分で記されます。



P44の写真にある扶蘇山城側から市街地を見た風景。大きな川を中心にはまちが広がっています。太宰府と同じく盆地なので冬は寒く夏は暑いそうです。



人口は太宰府よりちょっと少ないくらいだけど、面積は20倍以上もあるよ！



扶餘共同ブランド「グッドトゥレ」を設立。スイカ、ミニトマト、メロン、栗、しいたけに関しては韓国内で最大の生産地です。

扶餘の名所・見どころ

古代百済王朝の栄華を物語る、歴史的文化遺産が数多く残っています。
扶蘇山／官北里遺跡／定林寺址／羅城／陵山里古墳群／宮南池／百済文化団地／白馬江／薯童謡テーマパーク／国立扶餘博物館／百済文化祭など



▲百済文化団地
ホテルや歴史再現村など、家族で楽しめる100万坪のテーマリゾート。



▲宮南池
現存する韓国最古の人工池。7月に「扶餘薯童蓮の花祭り」が開かれる。



～薯童謡と宮南池～

百済国の芋売りの少年、薯童が新羅國の美しい姫を得るために町の子どもに薯童謡(姫が夜に城を抜け出して薯童と会っているという嘘)を歌わせます。怒った新羅王が城から姫を追い出すも、結局2人は惹かれあい、百済の王と王妃になったという話。

宮南池にはこの2人が舟遊びをしたという伝説が残っています。

【令和4年度の関連事業(予定)】

今年度は姉妹都市提携10周年を記念して、さまざまな関連事業を行う予定です。

- 関連書籍特集コーナー「姉妹都市韓国・扶餘を知る」
3月31日(木)~4月26日(火)/太宰府市民図書館
- 姉妹都市記念給食
4月22日(金)/市内小学校
- 姉妹・友好都市パネル展
6月下旬/市役所1階市民ギャラリー他



最新の情報やその他の事業は市ホームページを見てね！



国際・交流課
ホームページ

祝 太宰府市・扶餘郡 姉妹都市提携10周年！

問い合わせ 国際・交流課 国際・交流係(内線482)

平成24年4月に太宰府市と大韓民国扶餘郡が姉妹都市となり、本年で10周年の節目を迎えます。両都市の交流のあゆみや扶餘郡について紹介します。

約1350年前からのつながり

本市にある水城跡。約1350年前に築かれた際、工事の指導にあたったのが扶餘(当時の百済王朝の都)からやって来た技師たちでした。古くから太宰府と扶餘には深い縁があったのです。

提携のはじまり

昭和46年頃からの太宰府天満宮の文化研究所と扶餘文化院との研究交流がきっかけです。その後、昭和52年、菅公1075年大祭の一環で親善使節団が扶餘を訪れた際、同行した当時の太宰府町長が申し出て、翌年の昭和53年に扶餘邑と姉妹都市協定を締結しました。

次世代へ広げ、つなぐ

太宰府町が太宰府市となった後も交流は続き、それまでの友好関係をさらに発展させ、次の世代につなげるため、上級行政区域である扶餘郡へと「承継」することに。平成24年、太宰府市市制施行30周年にあわせて、姉妹都市承継協定を締結しました。



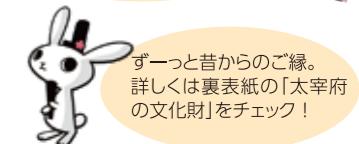
▲旧太宰府町と扶餘邑の姉妹都市締結式
(昭和53年4月21日)



▲太宰府市と扶餘郡の姉妹都市承継協定書調印式
(平成24年4月8日)



扶餘郡マスコット
「クムドンイ」
邑は日本の町みたいなもの。
例えば扶餘郡庁の住所は、「大韓民国忠清南道扶餘郡扶餘邑泗沘路33」です。



ずっと昔からのご縁。
詳しくは裏表紙の「太宰府の文化財」をチェック！

【これまでの主な交流】

姉妹都市交流事業として、市民を中心とした草の根交流や文化交流を重ねてきました。

- 市内小中学校による姉妹校交流
- 「太宰府少年の船」と「百済青少年の星」による相互交流
- 文化財保存活用の意見交換
- 市民訪問団の派遣
- 扶餘郡広報大使の任命(太宰府市民2人)
- 扶餘郡・太宰府市姉妹都市文化交流など



◀ 小学校姉妹校交流
オンラインにより、お互いの言葉での自己紹介や学校生活・市内の紹介、合唱しました。(令和3年)



◀ 扶餘郡・太宰府市姉妹都市文化交流公演
扶餘郡忠清南国楽団による演奏と舞が披露されました。(平成26年)